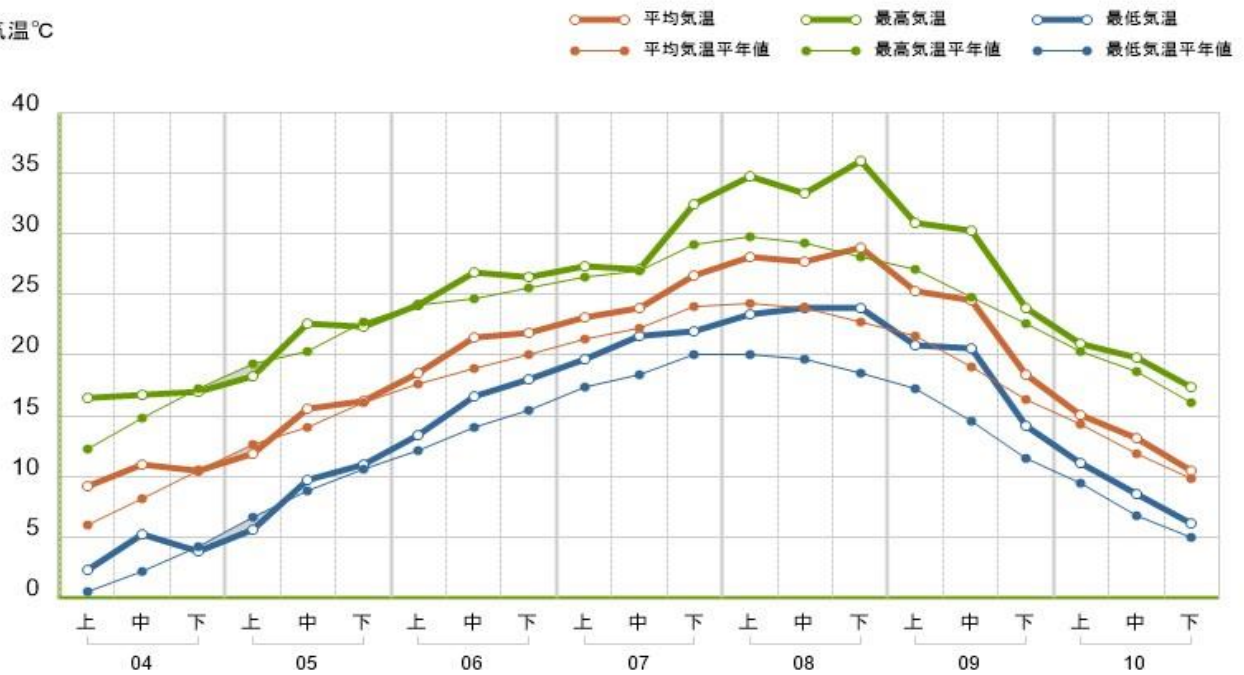


1) 令和5年度生育販売実績報告（推定含む）

I 令和5年 水稻生育状況

気象経過 令和5年4月1日～10月31日まで

気温℃



降水量ミリ

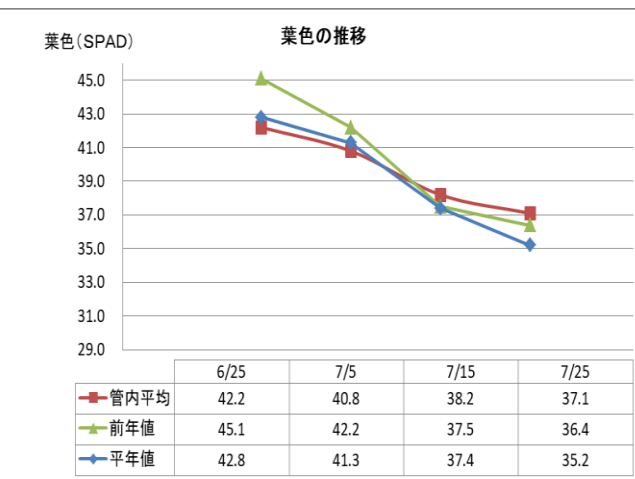
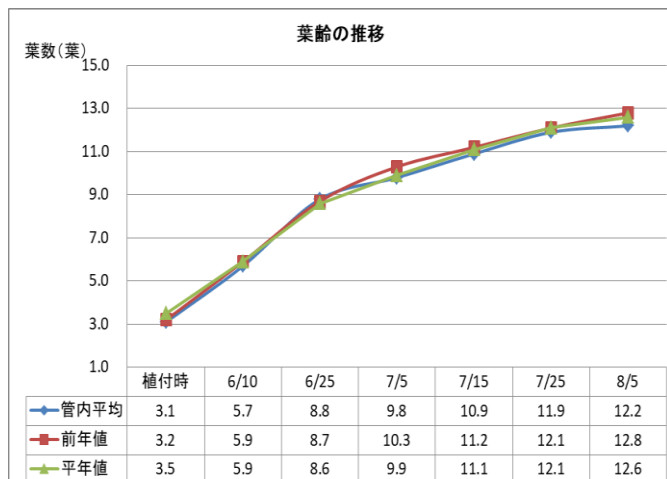
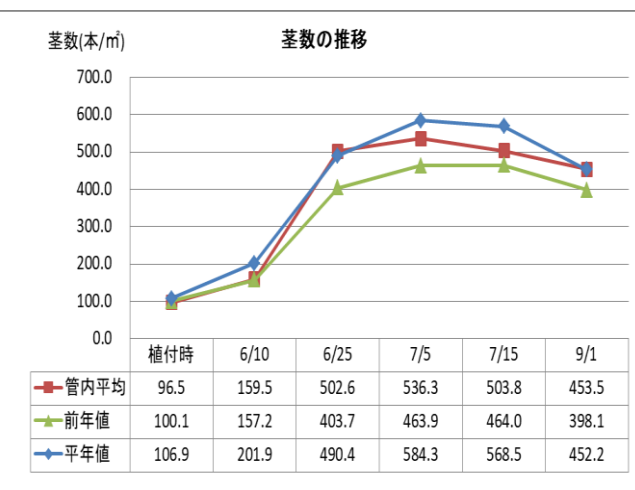
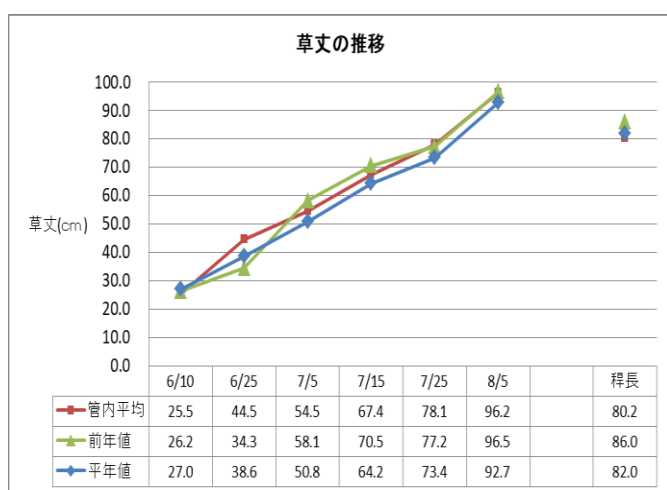


日照時間



- 1) 播種作業はほぼ平年並みに始まりました。育苗期間の気温は平年より高く、強風の影響で葉先焼けの症状が多少みられましたが、苗の生育は概ね順調でした。
- 2) 田植え作業は5月14日頃から始まり21日頃に盛期となりました。作業期間を通じ、中苗の適温とされる平均14℃を上回り、田植後の活着は良好だったと考えられます。
- 3) 生育状況は、7月15日での展示圃の調査では「草丈：67.4 cm（平年比104.9%）、茎数：503.8本/m²（同88.6%）、葉数：10.9葉（同▲0.2葉）、葉色：38.2（同+0.8）」と、草丈がやや長く葉色は濃く、茎数がやや少ない状況でした。茎数に関しては631本/m²という圃場もあれば405本/m²という圃場もあり、圃場間格差がありました。
6月下旬に気温格差が少なく、分けつの発生が緩慢になったと考えられます。
- 4) 7月25日の生育状況は、草丈78.1 cm（平年比106.4%）、葉色37.2（同+2.0）、葉齢11.9葉（同▲0.2葉）と草丈が長く、葉色も濃い状況で追肥を控える圃場が多い中で、葉色が低下している圃場や草丈が74 cm以下であれば、稲体の活力を維持するため、窒素成分で1 kg程度の追肥の実施を周知しました。
- 5) 生育期間中の気温は高温傾向で推移し、出穂期は7月28日と平年より3日ほど早まりました。出穂後も高気温が続き、刈取りの目安である積算気温1,050℃到達が9月3日～5日になるなど、登熟期が大幅に早まりました。

◇管内あきたこまち水稻展示圃19カ所の平均数値◇ ※平年値は過去10か年の平均



II 作柄

12月12日時点の本県作柄は、10aあたりの収量が県北で530kg、中央が542kg、県南が571kg、秋田県全体では前年より2kg少ない552kg、作況指数97のやや不良となりました。

J A あきた北水稲展示圃収量構成要素

項目(単位)	本年値	前年値	平年値
穂数(本/m ²)	433.0	359.3	453.1
1穂着粒数(粒)	65.7	79.6	69.0
登熟歩合(%)	91.6	83.2	86.2
精玄米重(kg/10a)	581.6	544.8	595.0
千粒重(g)	22.4	22.9	22.3

※ 本年値は、管内あきたこまち水稲展示圃19カ所の平均数値

※ 平年値は管内あきたこまち水稲展示圃過去10カ年の平均値

令和5年産米の集荷状況は、12月13日現在で、主食用米が217,367袋/30kgで出荷契約比率は82.6%、集荷量は前年対比89.8%と、前年より24,648袋/30kg少ない集荷量となりました。

一等米比率は86.0%と前年より4.8%低くなりました。二等以下の格付け理由は、斑点米カメムシ類を含む着色粒が61.1%(前年68.5%)、充実度不足が21.5%(前年20.1%)、心白粒・腹白が7.5%(前年0.1%)、胴割粒が2.8%(前年1.9%)となりました。

III 病害虫の発生概況

1) いもち病

7月中旬以降にいもち病感染好適条件が観測され、管内でも「めんこいな」を中心に病斑を多数確認しました。箱処理剤やオリゼメート粒剤等の使用圃場でも薬効が低下する時期で、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤(ブラシンまたはノンブラス)の散布防除を周知しました。

穂いもちは、葉いもちの上位葉の発病が多かったことから平年より多く確認されました。

2) 斑点米カメムシ類

水田内での斑点米カメムシ類すくい取り結果(※1)

項目		斑点米カメムシ類
7月4半旬	本年	8.4頭
	平年	5.0頭
8月1半旬	本年	3.0頭
	平年	3.2頭

本田内での斑点米カメムシ類の発生量が多かったため、斑点米混入率は前年より高くなるのが懸念されたが、防除期の少雨により適期防除が実施されたことにより、カメムシ類による斑点米の発生は、前年よりやや少なかった。

しかし、8月の高温少雨により、割れ粒率(※2)が39.7%(平年10.8%)と増加したことで、割れた粒からカビや雑菌が侵入し、黒く変色した全面着色米が多数見られました。

(※1)・(※2)は秋田県病害虫防除所調査結果より

本田内にホタルイ、ノビエ等が多発している圃場では、10頭を超える斑点米カメムシ類が確認されます。

斑点米カメムシ類は雑草地に生息しているが、稲の出穂期頃から水田に移動して登熟期の割れ粒を吸汁加害します。主要種のアカスジカスミカメはホタルイやノビエ等の穂に産卵するため、これらの雑草が水田内で繁茂すると多発し、斑点米による被害が甚大となります。

IV 販売

農水省が12月12日に発表した全国の作況指数は101、10a当り収量は533kg（前年差3kg）、収穫量は661万tが見込まれます。

本県の作況指数は97と2年連続でやや不良となったことで、販売面では全国的に業務用米の需要拡大や主要銘柄である「あきたこまち」の品薄感等により引合いが強くなっております。

このような状況下において当JAでは、各販売先と全量契約予定となっており、今後は適正な管理、販売に努めてまいります。